

うちなー地域づくり大賞受賞団体

国頭村与那区

奨励賞

ユナムンダクマ協議会

地域を盛り上げるユニークなイベント盛り沢山！
若者が住みたくなる地域づくりへの取り組み



今から15年ほど前、「このままじゃ与那はなくなる。」という当時の区長の言葉を機に、何となく抱えていた未来への危機感が現実のものとなった。戦後復興期は林業で栄え、最盛期には3か所の製材所があった集落だが、雇用減少で人口流出・少子高齢化が進行し、地域活力が薄れてきていた。人口ピラミッドのバランスも崩れて、20～40代の子育て世代と10歳以下の子どもの数が極端に少なくなっていた。

先人たちが繋いできたものを、これからも

「20年後、集落から子どもがいなくなる。今動かないと、あとで後悔しても遅い…」と、集落運営の中心を担っていた世代が奮起し、翌年の2008年、【ユナムンダクマ

協議会】を立ち上げた。さらに、国交省の補助事業を活用し、集落散策ガイドマップの作成や、タカヒラ（宿道）の散策コース活用に向けた整備に着手した。（※宿道とは…琉球王朝時代に首里から地方への行き来のために作られた道路のことで、与那入り口のタカヒラは険しいことで有名で琉歌にも詠まれていた。）

オーバーのX's会に釣り大会！

その後、子育て世代の若者が住みたくなる地域づくりを目標に、協議会として活動の幅は広がり「地域を盛り上げる」そして「地域にお金を落とす」ためのイベントが続々と開催された。「集落に潤沢な資金はないが、それならば！」と住民が知恵を絞り、他にはないユニークなイベントを次々に生み出した。まさに、与那に人文あり！（＝ユナムンダクマの意）という語り草の通り、アイデアを形にして実行してきた。

イベント名だけ聞いても笑みがこぼれそうになる「オーバー達のX's会」は、以前から繋がりがあった沖縄大学の学生たちと連携した企画。サンタ帽をかぶったおばあ達によ

る何ともほっこりするクリスマスイベントで、学生からは歌のプレゼントがあり、サンタクロースも登場！集落を彩ったイルミネーションはTVでも取り上げられ、集落のPRにも繋がった。

「釣り大会」は集落の成人会が企画運営を担っている。協議会の年配者たちは下手に口出しすることなく全面的に任せているため、若者が主体性を発揮し、世代間交流の促進にもつながっている。

他の地区からも参加者があり、地域の枠を越えて楽しめるイベントとして秘かな人気で、釣り場所は特定せずそれぞれの穴場で行うため、開始と同時に散り散りになっていく。重量や数量など部門ごとの表彰（賞金もアリ）もあるので皆真剣そのものだが、釣れるポイントを見つけるところから戦いは始まっているようだ。大会終了後には、釣った魚

カテゴリー	地域の魅力発見／文化・伝統継承／観光・地域交流		
住所	沖縄県国頭村字与那68(よんな～館内)	電話番号	0980-50-1356
設立	2008年	人数	15名
主な活動	与那集落を活性化し、若者が住みたくなる明るい集落作り		
利用施策	地域を担う人材づくり調査事業(H20年度)、NPO等支援事業(R1年度)、地域づくりイノベーション事業(R1～2年度)		

が激安で放出されるため、地元のおばあちは大喜びでセリに集う。(写真のひと山でなんと500円!)

地域の宝である子どもたちのために、英語教室や屋号版作りも行った。屋号には住民同士の繋がりとともに過去の地形などが反映され、ここには川が流れていた、蔵が建っていたということなどを知ることでもできるため、いい学びの場になった。子供たちが屋号を調べ、木版に書いて色を付け、大人が各家に取り付けた。集落散策のツアーで訪れる方々からの評判も良い。



よんな～館でお待ちしています

楽しいイベントの他にも、タカヒラ登り体験ツアーや集落散策ツアーなどを受け入れている。

また、宿泊施設「よんな～館」稼働率UPのため、WEB上での予約システムやWi-Fiの整備も行った。結果、宿泊予

約の3割程度はWEBからとなり、システム整備の効果が徐々に表れている。但し、よんな～館には3部屋しかないので、やみくもに告知はできない。「自由気ままに、自分の時間がたっぷり過ごせる施設」としてターゲットを精査しながら、年間300人泊ほどの宿泊を目指している。

第二の故郷を目指して…



今後を見据え、住民だけでは難しい問題を解決するために、関係人口作りについても思案中。集落に人を増やしたいが、移住は人生の転機となる大きな決断であり、そう簡単なことではない。まずは、集落のファンを増やすこと、そして何らかの形で関わってくれる方を少しずつ増やしていきたいと考えている。「例えば、月500円程度の字費を負担してもらうことで、地域の行事に参加できたり、地元の青年と酒を酌み交わしたり。よんな～館の宿泊費も割引価格で提供して、気軽に遊びに来られるようにしたい。みかん狩りやホテル・星空観賞等、地域の魅力を活かしたプログラムの準備も進め、第二の故郷と思えるような仕組みが作れたら。」会長の大城さんは展望を語ってくれた。

そして、次の世代へ

与那集落からは、先人たちが繋いできたものを途切れさせまいと奮闘する様子が伝わってくる。しかし、住民1人1人が持つ危機感にはまだ温度差があり、雇用の創出とい

う課題も残されている。先述のイベントに加え、共同売店での1,000円飲み会や、子どもたちとの朝のラジオ体操など、住民1人1人と積極的に関わる機会を作り、近い将来、次の世代にパトナリシップできる体制の構築を進めていく中で、持続可能な取り組みを目指している。